

第28回優愛祭のご案内

日時：令和7年10月18日（土）10：00～20：00
場所：九州看護福祉大学

第28回優愛祭は、「青春疾風（読み：せいしゅんしっぷう）」をテーマとし、地域の方々はもちろん、学生自身が楽しめるようにしたいという想い、学生の力で地域を盛り上げて優愛祭を駆け抜きたいという想いを込めた学園祭となっています。

大学WEBサイト
『優愛祭』ページ



イベント情報

・吹奏楽部演奏 ・飛羽隊演舞 ・軽音楽サークル演奏 ・抽選会 ・ダンスサークル発表
・学生出し物 ・模擬店&キッチンカー ・レーザーショー、花火など

—— 昨年の優愛祭の様子 ——



- 公共交通機関をご利用ください。●当日はJR玉名駅・新玉名駅より大学まで無料送迎バスをご利用頂けます。（所要時間10分）
 - 大学敷地内には午前9時以降に入構可能です。●学内は全面禁煙となります。
- 駐車台数には限りがあるため、駐車出来ない可能性がございます。混雑を避けるため、公共交通機関を利用してのご来場をお願いいたします。
くれぐれも周辺施設への無断駐車、路上駐車はご遠慮ください。



学報「ビッグハート」とは？

本誌タイトルは、こころ豊かな看護と福祉」を目指す、本学の開学精神を表したシンボルマークに由来します。このシンボルマークは九州の形をしたハートの中心に本学が位置する熊本城北地域を卵型で描き、マーク全体で表す人の姿は、本学に集う「こころ」を持った若者たちを象徴しています。「ビッグハート」はそうした若者たちが本学で学ぶリアルな姿を伝えるキャンパスマガジンです。

九看大の『今』を伝えるキャンパスライフマガジン





2025

令和7年度入学式

桜が満開となった4月3日(木)、ご来賓・保護者の方々のご臨席のもと、令和7年度入学式が挙行されました。

肥後学長から看護福祉学部330名、大学院4名、助産学専攻科10名に入学許可が宣言され、新入生を代表して学部生から藤崎さん、大学院から岡田さん、助産学専攻科から喜讀さんがそれぞれ宣誓を行いました。

式典後は、オリエンテーションが行われ、新入生は新たな大学生活をスタートさせました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。



新任教員のご紹介

2025年度から新たに九州看護福祉大学に着任された8人の先生方に、専門分野やその魅力、さらにプライベートの過ごし方についてお伺いしました。



看護学科 藤本 優子 准教授

公衆衛生看護学を専門とし、保健師課程で未来の保健師を育成しています。行政保健師時代は主に親子保健に携わり、虐待や障がいをもつ親子を支援してきました。人生に寄り添える保健師の魅力を学生さんに伝えていきたいです。旅行が趣味で、各地の食やお酒を楽しんでいます。



看護学科 辻 理恵子 助教

保健師活動では、予防を含め健康な地域づくりが重要な課題であるといわれています。保健師課程4年生では公衆衛生看護学実習を通して保健師が行う公衆衛生看護活動について学びます。実習では、地域の地区踏査を実施し、地域の特徴を把握・分析して健康課題に応じた公衆衛生看護活動について考えていくため、それらの知識・技術・態度の習得につながるよう努めてまいります。



看護学科 前田 晶子 助教

地域・在宅看護学領域を担当しております。研究は、慢性期疾患を持つ患者(結核、慢性腎臓病など)の看護、学生への看護技術教育に取り組んでまいりました。病院や地域での勤務経験を活かし、地域・在宅看護学に興味を持ってもらえるような講義や実習に取り組みたいと思います。



社会福祉学科 森江 一史 教授

教諭、学校管理職、教育委員会勤務と40年近く教育の現場に携わってきた実務家教員です。講義では、教職の魅力を伝えるだけでなく、子どもたちを取り巻く今日的課題について対話し、共に成長できる熟議を実践中です。「迅速・確実・上品」をモットーに、明るく元気に100歳まで生きることが目標です。



鍼灸スポーツ学科 岩崎 泰知 助教

解剖学、はり・きゅう基礎実習などを担当しています。私の講義はディスカッションや発表を行うアクティブな形式で行っています。休日はゆっくり寝て、録画したバラエティー番組をみながら家事をしています。運動は姪っ子と遊ぶことで出来ていると思っています。



鍼灸スポーツ学科 鎌田 信太郎 助教

はじめまして！私ははり・きゅう基礎実習や鍼灸臨床実習(スポーツ鍼灸)などを担当しており、実技を通じて鍼灸の魅力や学びの楽しさをお伝えできるよう努めてまいります。休日はゴルフでリフレッシュし、ただいま絶賛ダイエット中です。応援よろしくお願いたします!!

Welcome 2025



口腔保健学科 柴原 聖子 専任講師

口腔保健を通じた予防医療の大切さについて、学生と共に学びを深めたいと思います。臨床や健康支援で培った経験を活かし、安心して意見交換できる授業を心がけながら、将来への一步を踏み出せるよう支えていきたいと考えています。ステンドグラス作りと愛猫との時間が癒しとなっています。



口腔保健学科 寺川 美咲 助教

担当科目は歯科診療補助実習、口腔保健臨床実習です。講義での学びをもとに歯科臨床における基礎的な演習や、歯科医院や病院で“人を感じる力”を育みながら実習を行っています。プライベートでは元気いっぱい1歳男の子の育児に奮闘中で、休日は家族でドライブをしています。



次代につなげる研究力

LABORATORY REPORT

研究紹介 Vol.01

社会福祉学科

増田 公香 教授

PROFILE

略歴／日本女子大学文学部社会福祉学科を卒業、ワシントン大学ジョージウォーレンブラウンを修了(M.S.W.取得)など。山口県立大学社会福祉学部社会福祉学科教授・大学院健康福祉学研究科教授、横浜市立大学国際総合科学部国際教養学系教授などを経て、現在本学看護福祉学部社会福祉学科教授。
所属学会／日本社会福祉学会、日本社会科学老年科学学会、日本地域福祉学会、Gerontological Society of America

【研究テーマ】

■障害者虐待

■障害のある人々の参加の評価 (日本語版 CIQ の作成)

私は障害のある方々について研究してきました。研究は大きく2つの方向性で展開しています。1点目は障害者虐待について、2点目は社会参加の評価スケールであるCIQ(＊1)に関する研究です。現在は、オーストラリアで開発されたCIQの改訂版であるCIQ-R(＊2)の日本語版を作成中です。



- ＊1：CIQ(Community Integration Questionnaire)
- ＊2：CIQ-R(Community Integration Questionnaire Revised)
- ＊3：『介護予防ガイドへ実践・エビデンス編〜』(平成31年度厚生労働科学研究費長寿科学政策研究事業、荒井秀典・山田実ほか)
- ＊4：フレイルとは健康な状態と介護が必要な状態との中間のこと、身体の障害や高齢による体力の低下などの身体的フレイル・定年退職や家族の離別などで引き起こされる心理的なフレイル・独居や経済的困窮による社会的なフレイルがある

次代につなげる研究力

LABORATORY REPORT

研究紹介 Vol.02

看護学科

古江 佳織 助教

PROFILE

略歴／本学看護福祉学部看護学科を卒業、同大学院看護福祉学研究科看護学専攻修士課程を修了。
現在本学看護福祉学部看護学科助教。
所属学会／日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本教育工学会、日本医療教授システム学会、九州医学哲学・倫理学会、日本医学哲学・倫理学会、日本小児在宅医療支援研究会、日本医療的ケア看護職員支援協会

【研究テーマ】

■医療的ケア児の対応に向けた 養護教諭の卒後教育

■看護職者のチームワーク

医療的ケア児の対応に向けた養護教諭の教育プログラムの開発に取り組んでいます。養護実習終了後から現職養護教諭を対象として、医療的ケア児支援に対する養護教諭の認識、医療的ケアに関する知識および役割の理解を深めるため、自己学習と演習を組み込んだ教育プログラムを整備し、その効果を検証します。



より専門的で実践的な学びを重ねて、
学生一人ひとりの成長を力強く支援します

養護教諭は医療関係者と教育現場の調整を担っていますが、医療的ケア児や看護師など支援員との関わりの課題としては、知識・経験の不足、医療的ケアに関する職務の不明確さ、多忙さなどがあります。また養成段階から医療的ケアに関する知識や技術を取得する必要性を認識していると言われます。そのため「学校内外の連絡調整や医療的ケア校内委員会などコーディネーターとしての能力育成」が必要です。その解決に向けて、様々な教育課程を準備するとともに、学生が主体的かつ自立的に学習できる教育プログラムの整備を検討しています。多忙による時間確保の困難さや知識定着の評価に加えて、養護教諭が抱える個々の課題解決へ至るのではないかと考えています。

資格を取得してからも成長を目指す、
養護教諭の卒後教育を幅広い分野で行います

養護教諭は教育職員免許法第2条において「養護を司る」教育職員と位置づけられています。児童の健康状態の把握、医療関係者との連絡・調整、看護師などと教職員の連携支援を担う立場として、医療的ケアの実践を行うことはありません。しかし養護教諭の職務遂行には、医療的ケア児が学校生活を送るために必要な医療知識は欠かせないと考えています。対象となる学習者は社会人であるため、自己調整学習を行うにはどのような教育プログラムが必要かを検討しています。養護教諭は学校に単独または少人数で配置されることが多く、不安や迷いが尽きないと考えられます。本学のように看護学と教職課程の両方を持つ高等教育機関が、こうした学習者に向けて継続的に学習機会を発信し続けることは重要であると感じています。



みなさんの考える被災地の復興とは何ですか？

地域社会災害サポートチーム「CDSTおれんじびーす」は、令和2年7月豪雨災害の熊本県人吉市、令和6年能登半島地震の石川県七尾市、そして令和7年8月の熊本豪雨後からは玉名市の3拠点で活動を行っています。

それぞれの地域で活動する際に大切にしているのは、被災された方やその地域の想いに“寄り添う”ことです。

復興は、被災された家屋や道路の復旧が終わって街並みが整った状態のことだけを指すのでしょうか。これまでの活動の中で、見かけの復興だけではなく、被災された方々の“心の復興”が進むまで寄り添う必要性を感じてきました。

そのため、家屋の片付けや家財の搬出といった作業の完了だけを目的とするのではなく、住民の方々がこれまで大切にしてきた暮らしに目を向け、声に耳を傾けることを大切にしています。

また、災害支援は現場作業だけではなくありません。

これまで、サロンなどのソフト面での支援や訪問活動といったように被災された方との多様な関わりをもつボランティアの方々と出会いました。

こうした支援者同士のつながりによって生まれる支援の連鎖こそが、被災された方の暮らしを支える“びーす”になるのではないのでしょうか。

これからも、学生だからこそできる寄り添いを通じて、心の復興を目指す活動を続けていきます。今回の発信が、復旧・復興の在り方を考えるきっかけとなれば幸いです。

第9回九州学生トレーナー交流会

令和7年8月27日(水)に本学で「第9回九州学生トレーナー交流会」が開催されました。この交流会は、九州の大学・専門学校で学ぶアスレティックトレーナー、健康運動指導士などをめざす学生が互いに交流を深め、九州におけるトレーナーの現状について学ぶことを目的としているものです。

今回は担当校として、本学からはリハビリテーション学科と鍼灸スポーツ学科の学生34名が参加し、そのうち11名が実行委員として企画・運営を行いました。

当日は、本学を含めて8校約100名が参加し、アイスブレイク、パネルディスカッション、レクリエーション、講演会を行いました。

パネルディスカッションでは、本学の卒業生を含むパネリスト3名をお招きし、プロフェッショナルになるまでのプロセスや、知識・技術のアップデート方法についてお話をいただきました。

講演会では、PRI-JAPANの阿部さゆり先生から、日米間におけるATの役割の違いや、緊急時のトレーナー・スタッフの動きについてお話をいただきました。

今回の交流会を通して得た学びや出会いを今後の活動に生かし、将来の夢や目標に向かって頑張っていきたいと思います。



令和7年度一般特待生認定証授与式

6月24日(火)に令和7年度一般特待生認定証授与式が執り行われました。一般特待生制度は、2年次以上の学部学生で昨年度の学業成績が優秀であった学生を一般特待生として認定することにより、有為な人材育成に寄与することを目的としています。

今年度は、看護学科24名、社会福祉学科11名、リハビリテーション学科9名、鍼灸スポーツ学科6名、口腔保健学科5名、合計55名が一般特待生として認定され、一般特待生認定証が授与されました。



令和6年度自己点検・評価報告書を公表

毎年度、本学の教育、研究、社会貢献及び大学運営等の諸活動について自己点検・自己評価を行っています。また、その結果を踏まえて改善を行い、大学全体の内部質保証の向上に取り組んでいます。

本年6月、本学ホームページで「令和6年度自己点検・評価報告書」を公表しました。

令和6年度自己点検・評価報告書はこちらから



聴講料
無料

令和7(2025)年度 九州看護福祉大学 公開講座

大学の教育・研究を社会に還元し、学習できる機会を提供することは、社会に開かれた大学でありたいと考える本学の重要な使命でもあります。本学では開学当初より公開講座や講演会を開催し、地域の皆様に学習の機会を提供しています。本年度もさまざまな講座・講演会を用意しておりますので、ぜひご参加ください。

	日時・場所	講師	演題・内容
第1回 (座学)	9月27日(土) 10時30分～ (受付:10時～) 2号館(2F) 大講義室1	看護学科 教授 生野 繁子	女も男も一人でも最期まで生き切る!! ー介護事情と地域包括ケアー 今や家族介護者の35%は男性の時代。高齢者の多くは一人暮らしか夫婦二人暮らし。国は地域包括ケアを推進中。男女共同参画の視点で高齢期の生き方を一緒に考えましょう。
第2回 (体験型)	1月24日(土) 10時30分～ (受付:10時～) 2号館(3F) 機能診断実習室	リハビリテーション学科 専任講師 吉里 雄伸	子どもたちの身体の課題とその対策 ー身体の発達と性差をふまえた保護者・指導者の役割ー 現代の子どもたちは、運動不足や過度な運動の二極化により、運動能力の低下やケガの増加などの課題を抱えています。これらの問題には身体の発達と性差に関わるため、保護者や指導者には理解と対応が求められます。本講演では、発達と性差に注目し、実技を交えて対策を考えます。 ※事前申込が必要です。 ※簡単なストレッチやトレーニングも予定していますので、動きやすい格好で来てください。
第3回 (座学)	2月7日(土) 13時30分～ (受付:13時～) 2号館(2F) 大講義室1	社会福祉学科 教授 日比 真一	学校に必要な福祉の視点 学校現場は複雑化・多様化した課題を抱えており、十分な対応ができない実態があるとされています。 ・いじめ ・非行 ・児童虐待 ・退学 ・不登校 ・発達障害など、挙げればきりがありません。これらの課題は教員の専門性だけでは対応に苦慮します。ケースによっては福祉の介入が必要なこともあります。 しかし、教育と福祉の連携はスムーズにいかないこともあります。連携のためには複雑化・多様化した課題をどのような視点でとらえる必要があるのでしょうか。
第4回 (座学)	2月14日(土) 10時30分～ (受付:10時～) 2号館(2F) 大講義室1	口腔保健学科 教授 中山 真理	からだを保護するよりよい歯や口の状態に整えていこう 現在のところ歯や口の状態と全身状態との関連について明らかにされつつあることを慎重にお伝えしたいと考えています。さらに、研究が示唆していることを日常での歯や口の衛生や気づかいに具体的に活かしていくにはといったことを歯科衛生士の目線から提案させていただきます。
第5回 (座学)	2月21日(土) 13時30分～ (受付:13時～) 2号館(2F) 大講義室1	鍼灸スポーツ学科 助教 岩崎 泰知	睡眠の東洋医学 日本人の睡眠時間は世界でトップクラスに短い?! 今回の講座では、東洋医学的な視点から睡眠について分析していきます。健康増進や維持に不可欠な休養活動であり、当たり前に行われている「睡眠」という活動について、一度向き合ってみませんか?睡眠であなたの人生が変わるかもしれません。
第6回 (座学)	2月28日(土) 10時30分～ (受付:10時～) 2号館(2F) 大講義室1	基礎・教養教育研究センター 専任講師 高 継芬	『万葉集』と中国のかかわり 中国と日本は同じアジアにある一衣帯水の関係にある隣国であり、古代から文化的交流を行ってきました。中国の『詩経』と日本の『万葉集』は、それぞれ両国の文学の源流といえると同時に、後世の文学にも大きな影響を与えています。本講座では『万葉集』について、『詩経』との関わり、「防人」という語の由来、「額田王」等について紹介する予定です。

※第1回、第2回及び第3回は玉名市との共催です。※発熱や体調不良がある場合は参加をお控えください。

対象 中学生以上の方 聴講料 無料 場所 九州看護福祉大学

原則事前申込は不要ですが、1月24日(土)開催「子どもたちの身体の課題とその対策ー身体の発達と性差をふまえた保護者・指導者の役割ー」は事前申込が必要です。詳細は本学公式WEBサイトでご確認ください。

お問合せ先 九州看護福祉大学 企画課(平日9:00～18:00)/ TEL : 0968-75-1834
〒865-0062 熊本県玉名市富尾888番地

公式サイトはこちらから

大学公式WEBサイトで講座情報随時更新



公開講座が中止になる場合は前日の18時までに大学公式WEBサイトでお知らせいたします。